

現状の夜間景観における問題点

1 調査対象モデル地区ごとの問題点

地区名	原爆ドーム及び 平和記念公園周辺地区	平和大通り沿道地区	広島城・中央公園地区		広島東照宮・國前寺 周辺地区	京橋川系 リバーフロント地区	旧太田川系 リバーフロント地区
	平和		(広島城)	(広島城以外)			
景観特性	平和		歴史・文化			水と緑	
色温度	・白いあかりが暗闇に点在しており、水辺は寒々しく、寂しい印象がある。	・駐輪場の照明や街灯の色味が白色で寒々しい印象を与えている。	・拡散型で白色の公園灯の光が視野に入り、趣のある雰囲気は阻害している。	・ほとんどが白色の拡散型ハイポール照明で、新しく整備されたエリアとの調和がとれていない。	・街灯や演出照明が白色のものは寒々しい印象を与えている。	・魅力的な水辺夜景において視対象となる橋梁照明の多くは白色で、寒々しい印象を与えている。	・魅力的な水辺夜景において視対象となる橋梁照明の多くは白色で、寒々しい印象を与えている。
グレア	・公園灯はグレアの程度が高く、原爆ドーム等の視対象を眺める上で支障が出ている。	・駐輪場の照明や街灯の多くはグレアの程度が高く、良好な夜間景観の眺めを阻害している。	・拡散型で白色の公園灯の光が視野に入り、天守閣への眺望を阻害している。	・グレアの程度が高い公園灯が景観を阻害している。	・神社仏閣敷地内の照明やその各施設を結ぶ街灯の一部はグレアを発生させている。	・橋上照明の多くはグレアの程度が高い。 ・河岸緑地に面する建築物に付帯する屋外広告物照明はグレアの程度が高い。	・橋上照明の多くはグレアの程度が高い。
鉛直面の明るさ	・豊かな緑陰が暗がりをつくっていることに加え、鉛直面の明るさが不足しており、園路は通行に危険を感じるほど暗い。 ・相生通り側の公園入口付近には照明施設が無く、入りたくなる雰囲気が希薄している。	・遊歩道は視野の大きな部分を占める鉛直面の明るさが不足しており、 <u>危険を感じるほど暗い。</u>	・区域内は照明も少なく、高木が暗がりをつくっており、 <u>危険を感じるほど暗い。</u> 夜間に散策するなら手元にあかりが必要な状況。	・既存エリアの建築物は夜にはすべて消灯しており、魅力的な夜間景観の形成に貢献していない。 ・鉛直面の明るさが不足している。	・参道や山門などのライトアップがされていない施設周辺は鉛直面の明るさが不足している。	・河岸緑地の遊歩道は照明が少なく、また樹木が暗がりをつくっているため、 <u>危険を感じるほど暗い。</u> ・スマートフォン等持参した光で路面を照らしながら歩行せざるを得ない状況。	・河岸緑地の遊歩道は照明が少なく、また樹木が暗がりをつくっているため、 <u>危険を感じるほど暗い。</u> ・スマートフォン等持参した光で路面を照らしながら歩行せざるを得ない状況。
陰影のバランス	・明るさが必要な園路の大半が暗がりになっており、陰影のバランスが悪い。	・遊歩道の街灯はグレアを感じる上、歩行者の視線まで光が届いておらず、非常に暗く感じる。陰影のバランスが悪い。	・御門橋から表門を見た際に右側だけがライトアップされており、陰影のバランスが悪い。	・都心部にありながら公園内の既存エリアは夜間非常に暗い。	・神社仏閣は魅力的な夜間景観資源であるが、ライトアップしていない施設やそれらを結ぶ街路は、暗がりとなっている。	・遊歩道の陰影のバランスが悪い箇所がある。	・平和記念公園に接するエリアの厳かな雰囲気と中央公園周辺のにぎわいが創出された雰囲気それぞれの特徴を考慮した陰影のバランスを検討する必要がある。
地区特性	・一部の改修された公園灯は明るすぎて白色でグレアも高いため、厳かさや慰霊と鎮魂の雰囲気があまり感じられない。	・美しい並木、緑地、庭園デザインが活かされていない。	・天守閣はライトアップされているが、東側や北側は石垣が暗く、歴史を感じる雰囲気は希薄している。	— (新たに整備されたエリアが良好な夜間景観を形成しているため、地区特性として特筆すべき問題点はない。)	・点正在している神社仏閣をつなぐ散歩道の演出照明が連続していない。	・河川域が暗いため、都会のビル群と河川の織りなす水辺夜景の良さが感じられない。	・基町環境護岸エリア全域は、照明設備が少なく、水辺夜景の良さが感じられない。
資源の活用	・記念碑やモニュメントにはあかりが灯っていないものも多く、寂しい印象がある。 ・原爆ドームのライトアップは立体感が感じられない。	・モニュメントとして設置されている石灯籠などの資源が暗がりの中に埋もれており、活かされていない。	・大鳥居や銅像等の資源が暗がりの中に埋もれており、活かされていない。	— (新たに整備されたエリアが良好な夜間景観を形成しているため、資源の活用として特筆すべき問題点はない。)	・夜間には閉門している施設も多く、ライトアップ設備などが無い施設も多い。	・橋梁や河岸緑地のオブジェ、アート遊具等、ランドマークになり得る資源を生かしきれていない。	・橋梁や基町環境護岸、浮棧橋等、ランドマークになり得る資源を生かしきれていない。

地区名	広島駅周辺地区	紙屋町・八丁堀地区		湯来温泉・湯の山温泉地区	似島地区
		(紙屋町・袋町)	(相生通り・八丁堀)		
景観特性	にぎわい・おもてなし			(水と緑)	
色温度	・新幹線口側の光環境は、テナント店舗や周辺ホテル等の照明は電球色が多いことに対して、駅全体は白色であり、色味が混在している。	・ <u>街灯や屋外広告物照明の白色のあかりが路面店から漏れる温かみのあるあかりによって形成されている良好な夜間景観を阻害している。</u>	・相生通りの街灯(白色HIDの道路照明と電球色のナトリウム灯装飾照明からなるオリジナル照明)は、色温度や配光などの照明手法が今日的ではなく、歩行者を意識した光環境への再検討が必要。	・クアハウス駐車場付近の白色の照明が寒々しい雰囲気を与えている。	・港は明るいですが、棧橋寄合所などの施設照明は色温度が高く、寒々しい印象。
グレア	・南口側の街灯は電球色であるが、拡散配光でグレアがある。 ・新幹線口2階ペDESTリアンデッキのダウンライトは地上レベルから見上げるとグレアがあり、照明自体が目立つ。	・街灯や屋外広告物照明等はグレアの程度が高いものが多い。	・街灯や屋外広告物照明等はグレアの程度が高いものが多い。	・街灯はグレアの程度が高い。	・街灯はグレアの程度が高い。
鉛直面の明るさ	・ <u>二葉の里エリアは鉛直面の明るさが無く、不安を感じる箇所もある。</u>	・ <u>袋町公園などの公共空間が暗い。遊具もベンチも暗がりに包まれてしまい、夜間の利用に適さない。</u>	・幹線道路の樹木はライトアップされておらず、 <u>鉛直面の明るさが少ない。</u>	・ <u>湯来温泉も湯の山温泉も現状は真っ暗。</u> ・木々に囲まれた湯の山明神社の階段には照明設備が無い。	・ <u>生活道路全般で照明が不足している。住民は懐中電灯やスマートフォン等の光を利用して足元を照らしている。</u> ・ユーハイム似島歓迎交流センターの施設内のオープンスペースはどこも暗い。
陰影のバランス	・ <u>線路沿いの細街路は危険を感じるほど暗い。</u>	・アリスガーデンなど全体を一様に照らす手法で明るくしている 場所は陰影が少ない。	・にぎわいのエリアであるため、全体的に煌々としたあかりで 陰影が少ない。	・ <u>現状は全体的に真っ暗な状況。</u>	・ <u>現状は全体的に真っ暗な状況。</u>
地区特性	・ <u>駅前店舗の屋外広告物照明が明るすぎて目立つ。</u> ・ <u>建物壁面のカラー照明演出が目立つものもある。</u>	・ <u>店舗等の漏れ光や街灯と屋外広告物の照明が調和していない。</u> ・ <u>夜間景観を整えるに当たり、流川や薬研堀地区をはじめとする歓楽街とのバランスに配慮する必要がある。</u>	・ <u>屋外広告物の照明は無秩序な状況。</u> ・ <u>夜間景観を整えるに当たり、流川や薬研堀地区をはじめとする歓楽街とのバランスに配慮する必要がある。</u>	・温泉街のシンボルである木製の春日灯籠は破損も多い。 ・湯来温泉の河川域は暗がりで危険を感じる。	・島内のほとんどすべてのエリアが暗がり。
資源の活用	・ <u>二葉の里エリアは、神社仏閣に向かう道が暗い。</u>	・ <u>都心部の中心地にあり、個性的なモニュメント等でデザインされているアリスガーデンは夜生かされていない。</u>	・ <u>相生通りをはじめ、都心幹線道路の照明手法は古く、魅力的な目貫通りの夜景づくりができていない。</u>	・ <u>湯の山明神社の鳥居や灯籠が生かされていない。</u>	・ <u>棧橋や護岸等の資源が生かされていない。</u>

2 景観特性ごとの問題点

景観特性	平和	歴史・文化	水と緑	にぎわい・おもてなし
調査対象 モデル地区	原爆ドーム及び平和記念公園周辺地区 平和大通り地区	広島城・中央公園地区 広島東照宮・國前寺周辺地区	京橋川系リバーフロント地区 旧太田川系リバーフロント地区 湯来温泉・湯の山温泉地区 似島地区	広島駅周辺地区 紙屋町・八丁堀地区
共通する 問題点	<ul style="list-style-type: none"> 平和記念公園や平和大通りは、豊かな緑陰が暗がりをつくっており、園路は通行に危険を感じるほど暗い。 鉛直面の明るさが不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 広島城の区域内は照明も少なく、高木が暗がりをつくっており、危険を感じるほど暗い。 鉛直面の明るさが不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 河岸緑地の遊歩道は照明が少なく、また樹木が暗がりをつくっているため、危険を感じるほど暗い。 スマートフォン等持参した光で路面を照らしながら歩かせざるを得ない状況。 鉛直面の明るさが不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 袋町公園などの公共空間が暗い。夜間の利用に適さない。 鉛直面の明るさが不足している。
景観特性に 関係する 問題点	<ul style="list-style-type: none"> 一部の改修された公園灯は明るすぎて白色でグレアも高いため、厳かさや慰霊と鎮魂の雰囲気あまり感じられない。 記念碑やモニュメントにはあかりが灯っていないものも多く、寂しい印象がある。 美しい並木、緑地、庭園デザインが生かされていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 広島城の東側や北側は石垣が暗く、歴史を感じる雰囲気は希薄している。 大鳥居や銅像等の資源が暗がりの中に埋もれており、生かされていない。 二葉の里の神社仏閣をつなぐ散歩道の演出照明が連続していない。ライトアップ設備などが無い施設も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 水辺夜景の良さが感じられない。 橋梁や河岸緑地のオブジェ、アート遊具等、ランドマークになり得る資源を生かしきれていない。 湯来温泉・湯の山温泉地区では、湯の山明神社の鳥居や灯籠が生かされていない。 似島地区では、栈橋や護岸等の資源が生かされていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 屋外広告物の照明は無秩序な状況。 店舗等の漏れ光や街灯と屋外広告物の照明が調和していない。 路面店から漏れる温かみのあるあかりが形成する良好な夜間景観を街灯や屋外広告物の白くグレアの程度が高いあかりが阻害している。 建物壁面のカラー照明演出が目立つものもある。 相生通りをはじめ、都心幹線道路の照明手法は色温度や配光などが今日的ではなく、魅力的な目貫通りの夜景づくりができていない。

(参考) モデル地区の調査を通じて見えてきた本市夜間景観の問題点

- 公園や河岸緑地などの公共空間は危険を感じるほど暗いところが多い。
- 河岸緑地をはじめとする広島らしい景観資源、景観特性が上手く生かされていない。
- 都心部では屋外広告物や建築物の照明が無秩序で周辺と調和していない箇所が多い。